

「主の熱心」 ～神への熱心と自己への熱心～

マタイ1：18～25

私たち人間は非常にすばらしく造られました。しかし長い人生の中で、すばらしさがくすんでしまったり、ゆがんでしまったりと本来の姿ではなくなってきてしまっているのです。神様はそれを元に戻したいと熱心に思っているのです。教会にくると本来の姿に戻る過程に入るようなものです。自分では元に戻ると意識がなくともすべきことをしていると自然にそうなるように導かれているのです。本来の姿ではない私たちには他人に見せられないような心の状態になっていないでしょうか。それを良くするために神様はイエスキリストをこの地上に送ったのでした。イエスキリストご自身も（ピリピ2:6～8）『キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。』それがクリスマスの本当の意味なのです。神であるキリストが私たちのために家畜小屋に生まれなければならず、十字架にかかるほどの命がけの愛はどこから生まれているのでしょうか。それは私たちが神よって造られた元の姿に戻ってほしいというただ一心によってなのです。私たちはしたくない事をしてしまう、やらなくてよいことをやってしまう、怒ってしまう、批判的に隣人をみてしまう心を元の造られた姿に戻したいだけです。先週のメッセージでも「完全なものに」なりなさいと言われていました。完全とは完璧ではありません。造られた元の姿に戻りなさいと言われていただけです。私たちの元の姿とはどんな姿でしょうか。変わろうとしても私たちには染み付いてしまった生き方が今だに邪魔をします。私たちはやらなくも良いことには真剣に取り組み、やらなくてはいけないことはやってないのです。だからこそ、今自分がすべきことをしっかりと果たさなければなりません。（マタイ1：18～25）イエスの父ヨセフと母マリアが住民登録へ行くところの話です。当時結婚外の妊娠は不貞の罪によって女性が殺されていました。ヨセフはマリアを去らせようとはしますが、御使いがきてそのまま過ごすように促すのです。生まれてからも何度も殺されそうになりながらも神様が守り難を逃れていきました。私たちは人生の中で問題が起こるとすぐになぜ！このようなことが起こるのかと思ってしまいます。神はそのような時、様々な方法で私たちを助けて下さるのです。それは神様が私たちと一緒にいてくださるからです。神と共にいれば、起こった問題は問題ではありません。神様は私たちを必ず幸せにすると熱心に思い働いて下さるのです。1番大事なことは私たちが神様と一緒にいるのかということです。私たちは神様と共にいると思っていますが、隣人と関わる時、隣人と何かをする事にイエス様は共にいるのでしょうか。私たちは主と共にいますが、何かする時は自分の力でやってくるという事が往々にしてあるのです。イエスキリストは「インマヌエル」とよばれる。主は共にいるという意味です。ですから時々いるというものではありません。困った時、悲しかった時、礼拝している時しかイエス様を感じられないような生活になっていないでしょうか。今日のテーマは「主の熱心」～神への熱心と自己への熱心です。これが原点ともいうべきことです。自らのために生きる人生と神様のために生きる人生の違いです。人は自分のために生きていますが、本当の意味は神様の造られた姿に戻ることが自分のために生きることなのです。非常によく造られた私たちが生きてい中で悪くなってしまったのであれば、そこから元に戻ることこそ、自分のために生きることになるのです。私たちが熱心になることは神様が造った元の姿に戻ることです。私たちが陥りやすいこととして、どのような将来になるのかが見えないまま主に仕え続けていくことをしてしまっているのです。私たちの心に光が灯り、正しい歩みに戻ることがクリスマスの意味です。それをしなければ、新しい年を迎えてもあまり変わりません。私たちはこのことを神様の愛に応えるためにしなければいけません。私たちのために犠牲となるために生まれたイエスキリストの愛に応えていきたいと思ひます。私たちはそれを強いられてするものではありません。正しいことをする自由が与えられています。自由を取り違えると“ほしいうまに振舞う”ようになっていきます。果たしてそれで良いのでしょうか。（イザヤ37：29～35）神様は私たちに希望を与えています。たとえ今は厳しい状況にあったとしても必ず神様が抜け出させて下さるのです。私たちが神様から造られた姿に戻っていければ、必ず祝福を受けることができます。それは御言葉に約束されています。万軍の主の熱心がこれを成し遂げると言っているからです。神様は熱心です。しかし熱心でないのは私たちです。自分の欲のためには熱心になってしまうのですが、本来熱心になるべきところには熱心になることはできません。神様がしなさいと言っていることは僅かなことです。ですから**①神様の思いを知り**ましょう。神様の思いを知らないと奉仕をしていても疲れてしまいます。神様は私たちにどのようになってほしいのか。そしてどのような存在なのでしょう。しかしそのためには私たちの過去を捨てないと知ることはできません。私たちにはそのすべてを知ることはできないと思ひますが、でも知る努力をするべきなのです。そしてその努力とは神様の前に素直になり、今すべきことをすることなのです。そのために**②人間的価値観に勝利する**必要があるのです。私たちの価値感がある限り、自己中心的であり、自分と比較し他人を裁くようになってしまいます。パウロは律法においては何も非の打ち所がない人でした。まさに自己義から物事を判断していました。私たちはやっていない人を見下してしまうのです。それをしていると私たちは裁いた通りに私たちが裁かれてしまいます。**③自己顕示欲 右顧左眄に注意**です。この言葉は、優柔不断で決断できない時に使います。人の目や周りを気にして本来言うべきことを言えない、本来やらなければならないことができないことはないでしょうか。周りを認めず自分だけで何でもしようとする「自己顕示欲」もサタンが植えつける種です。1人で成し遂げようとするから疲れてしまうのです。そんな私たちの心に光を灯すためにイエスキリストは生まれて下さったのです。ですが、私たちの心が1人になっていたら、意味がありません。来週のクリスマス礼拝を喜んで迎えるためにも今日、すべきことをしていきましょう。私たちに与えられているいのちをどのように使って天国へ凱旋するのでしょうか。良い僕と呼ばれるのかそれとも呼ばれないのかは私たち次第です。自分で良くもできるし悪くもできます。神様が心に語りかけてくれている言葉に素直に従い、自分を神様の本来造られた姿へと変えていきましょう。そしてクリスマスを喜んでお迎えしましょう。（要約者：平澤 一浩）